

『共に活躍する』 まちに向けて

長浜では現在、「共に活躍する」まちに向けて様々な取組や活動を行っています。ここではそれらの一部を紹介します。

長浜市民国際交流協会 (NIFA)

長浜市民国際交流協会では毎週火曜日に「日本語教室」を行っています。教室といっても授業形式ではなく、交流会に近いものです。地元の20代、60代の人たちがボランティア講師として活躍しています。

外国人の皆さんにとっては、日本語や日本文化を楽しむ学べ、講師にとっては、いろいろな国の人たちと触れ合うことで、自分の世界が広がります。国際交流ボランティアに登録すれば講師として参加できます。

その他にも、多文化共生フェスタや着付教室などのイベントも行っており、楽しくお互いの文化を学べる環境を作っています。気軽に参加できますので、ぜひ一度足を運んでみてください。

長浜市民国際交流協会
(☎6314400)



▲日本語教室の様子

長浜北小学校の取組

市内で一番多くの外国人児童が通う長浜北小。全校生徒の1割以上を占め、国籍は6か国にもおよびます。全ての児童が隔たりなく、学校生活を送るためには互いの文化、言葉を理解することが大切です。長浜北小ではそのために次のような取組を行っています。

○学級新聞やたよりの翻訳

保護者に正確な情報を伝えるために、学校からの文書を書

ポート支援員がそれぞれの言語に翻訳しています。

○日本語教室の実施

加配教員や学習指導員を配置し、国語の時間を利用して児童の言語やレベルに応じた教材で個別に指導します。スムーズな日本語力の向上をめざします。

○世界共有フレンド委員会

長浜北小独自の取組で、世界の文化を紹介する展示や全校集会などでの発表など、文化の「違い」を発信する委員会活動をしています。



▲お知らせの翻訳

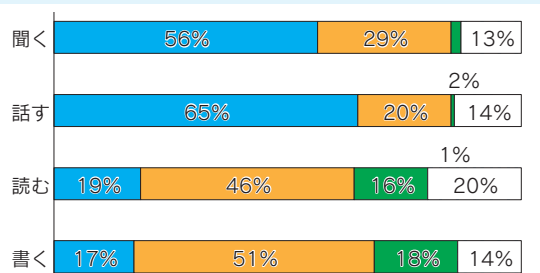
▼各国のあいさつ掲示



「共に活躍する」まちへの鍵は『言葉』

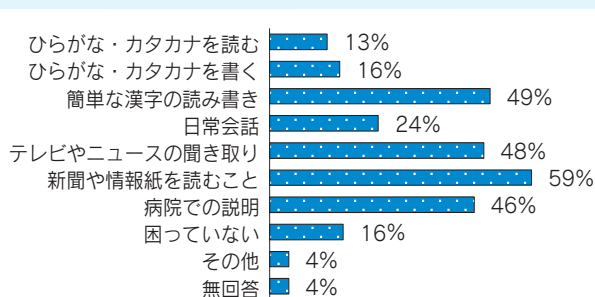
外国人が日本に来て最初に苦勞するのがやはり「言葉」。普段使い慣れていた日本語から、全くわからない日本語へと変わることに大きな不安を覚える人は多くいます。また、日本語を勉強したとしても漢字の読み書きに苦勞する人がほとんどです。

現在、市内在住の外国人の中で日本語を「話す」「聞く」がほぼできる人は50%を超えています。一方で「読む」「書く」がほぼできると回答した人は20%を下回りま



▲【グラフ1】日本語の習得レベル

等を読むことをあげています(グラフ2)。日本語を勉強していても、漢字や表現の方法などが壁となるのです。お知らせや張り紙などを作る時、少し工夫してみませんか。日本語だけでなく多言語で書いたり、漢字をひらがなにすると、表現を簡単にするなどの『やさしい日本語』を使うだけで、読みやすい文書ができあがります。これが浸透すれば外国人が活躍できる場も今よりもっと広がるでしょう。



▲【グラフ2】日本語でお困りのこと(複数回答)

あなたは正しく使える!?

やさしい日本語

やさしい日本語のポイント

この特集の最初の文章をもう一度読みなおしてみてください。どう感じましたか。日本人にとっては理解できる文章でも、外国人にとってはどうでしょうか。いつも使っている日本語にも外国人にとってはむずかしい言葉がたくさんあります。「多言語化」、「高齢化」などすぐに理解することができないのではないのでしょうか。

外国語を話せなくてもこのようなむずかしい言葉を「やさしい日本語」にかえるだけで、外国人とコミュニケーションをとりやすくなります。また、災害時の避難方法や、ゴミ捨てのルールなどを優しい日本語にすることも、とても大切なことです。

相手を考えての言葉選び。今すぐできる思いやりを始めてみませんか。

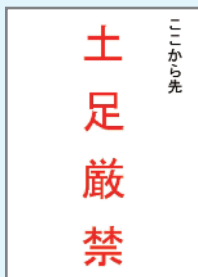


- ことばをやさしく言い換える
- ・**避難所** → みんなが逃げるところ
- ・**厳禁** → やつてはいけません
- ・**多言語化** → いろいろなことばで書く
- 情報量を少なくし、いらぬ言葉をつけない
- ・**各戸に配る自治会のお知らせを見てください。**
- ・**自治会のお知らせをくばります。その紙を見てください。**
- わからないことは例を出す
- ・**筆記用具を持ってきてください。**
- ・**書くものをもってきてください。例え、ボールペンなどです。**

この他にも、イラストをつけたリジェスチャーをつけるとより伝わりやすくなります。

実際に考えてみよう!

左の張り紙を見てください。



この張り紙を今まで紹介したポイントを使い、やさしい日本語に変えてみましょう!

「土足」と「厳禁」どちらも外国人にとって、むずかしい言葉です。「土足を「クツ」に、禁止表現を使わず「ぬいでください」と置き換えてみましょう。余ったスペースにわかりやすいようにイラストも入れてみましょう。



外国人にとってだけでなく、子どもにもやさしい張り紙となりました。



佛教大学教授
近藤 敏夫 氏

長浜には豊かで多様な風土があります。市民はその風土を守ってきたことに誇りを持っています。その長浜に30年前からたくさん外国人がやって来るようになってきました。その子どもや、孫が生まれるようにもなりました。今、長浜には豊かで多様な文化が花開く土壌ができています。

新しい文化をつくり長浜の風土に根付かせるためには苦勞や痛みが伴います。人と人が出会い、ぶつかり合い、お互いの可能性に気づくことが必要です。国籍や生まれの違いを越えて、共に遊び、共に働き、新しい居場所を長浜に作っていくことが問われます。多様な人々が長浜の市民として関係を築いていくことが、すばらしい長浜をつくっていくこととなります。